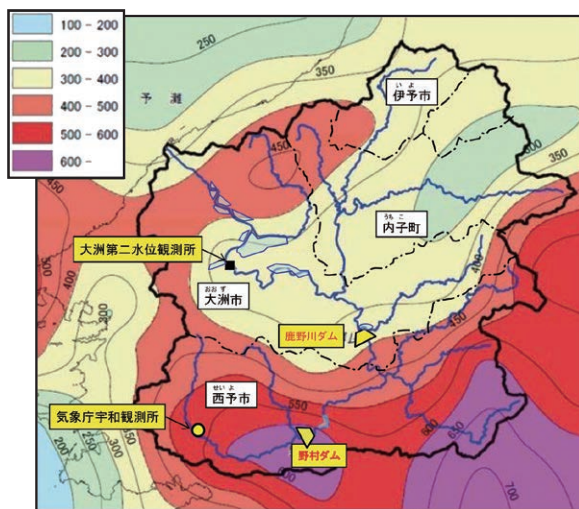


観測史上最大規模の洪水が発生。

平成30年6月末から7月上旬にかけての台風7号及び梅雨前線による記録的な豪雨により、西日本の広範囲で大規模な河川の氾濫や土砂災害が発生しました。肱川流域においても、甚大な浸水被害や土砂災害が発生しています。

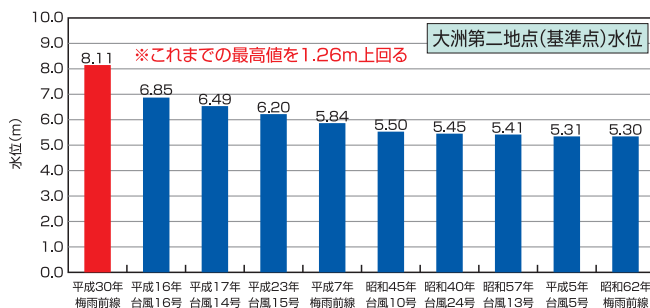
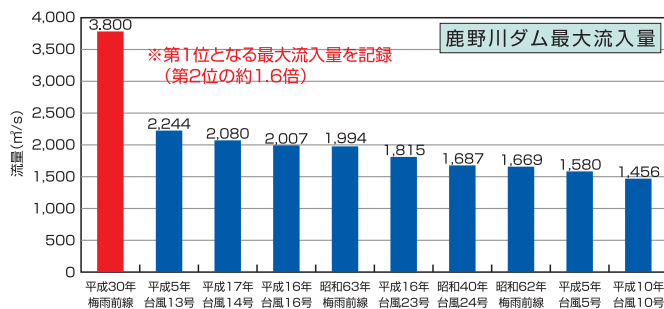
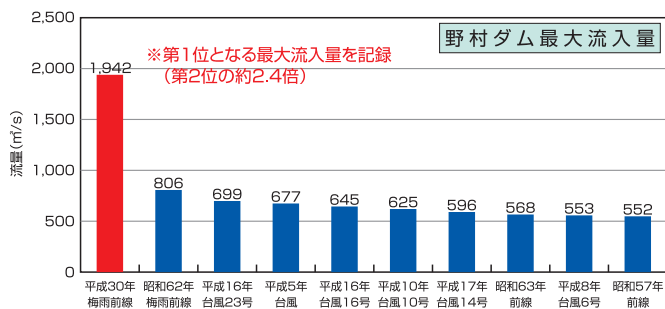
■肱川流域の気象概要

肱川流域の野村ダム上流地点(気象庁宇和観測所)の降水量が48時間(7月5日7時20分～7月7日7時20分)で観測史上第1位の443mmを記録しました(第2位335mm)。



平成30年7月4日～8日 肱川流域等雨量線図(mm)

- ・ダム最大流入量は、野村ダムで1,942m³/s(第2位806m³/s)、鹿野川ダムで3,800m³/s(第2位2,244m³/s)となりダム管理開始以降の既往最大値を大きく上回りました。
- ・大洲第二水位観測所では、7日5時00分に避難判断水位(4.80m)、7日8時20分に氾濫危険水位(5.80m)を超えてさらに上昇し、7日12時20分に観測史上最大となる8.11mを観測しました。



肱川水系肱川被災状況図(平成30年7月7日)

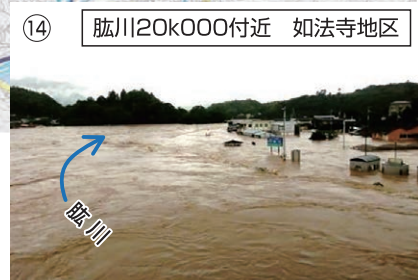
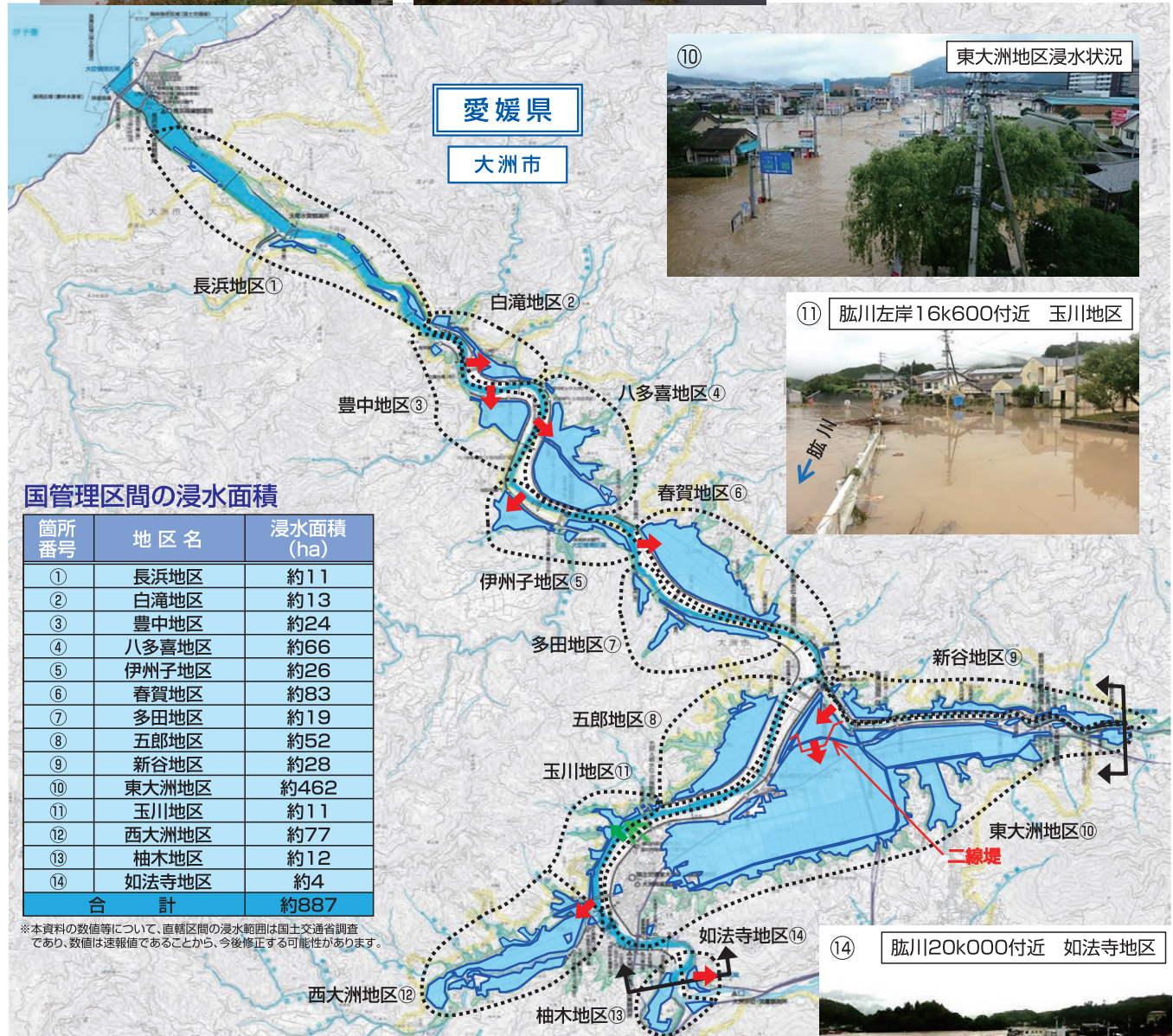
大洲市全域で浸水家屋3,029戸(床上2,250戸、床下779戸)、浸水面積約1,372haの浸水被害が発生しました。

※浸水家屋数及び浸水面積については、大洲市調べ



凡例	
	越水箇所
	溢水箇所
	洪水範囲

※浸水範囲には、洪水による浸水と内水による浸水範囲が含まれています。



この地図は、国土地理院長の承諾を得て、同院発行の電子地形図25000を複製したものに追記したものである。(承認番号 平29四複、第77号)